



## 企業プロフィール

- 設立：1982年
- 事業内容：情報サービス事業、システム販売事業
- 従業員数：単体 463名、連結 553名 (2015年4月現在)
- 年次有給休暇の取得率：65%
- 年間休日数：123日
- URL：<http://www.nos.co.jp/>

## リフレッシュ休暇、子どもの誕生日休暇、ボランティア休暇



社会と関わるための  
休暇制度

## 社会貢献活動とボランティア休暇を同時に構築して相乗効果を期待

## ポイント

- ① 従業員満足度調査の声から施策のアイデアを得る
- ② 社会貢献活動をボランティア休暇として認める

日本オフィス・システム株式会社(NOS)は、1982年に兼松株式会社と日本IBM株式会社の合併による日本IBMの特約店として設立。機器販売からサービス・ソリューション事業に軸を移し、法人向けシステム構築のほか開発、導入、保守までITライフサイクル全般のサービスを提供して成長。2005年ジャスダック市場に株式上場。2015年7月に兼松エレクトロニクス株式会社の完全子会社となり、現在、兼松グループのIT戦略部門として一翼を担っている。

同社は顧客の意見・要望を真摯に受け止め誠実に対応することを規範としているが、社員の声にも丁寧に耳を傾け、特別な休暇制度の構築にも積極的に取り組んできた。社員の満足度を高める一因となった特別休暇制度について総務本部の石川良一本部長に伺った。

### 9割以上が取得するリフレッシュ休暇

リフレッシュ休暇は、会社設立時から勤める社員が10年目を迎える年、25年目を迎える年にそれぞれ、社員のために何かしてあげたいという気持ちからスタートしました。勤続10年で3日間の有給休暇と8万円の旅行券を、勤続25年で5日間の有給休暇を付与してい

ます。25年目の場合、土日につなげると9日間の大型連休になります。勤続して四半世紀という節目にリフレッシュをしてもらおうということで設定しました。

取得率は高く9割以上が利用しています。勤続10年目、25年目の社員がいることは人事からその部署のマネージャーに知らせています。

### 子の誕生日を「錦の御旗」に

子どもの誕生日休暇は、株式上場を見据えてコンプライアンスの見直しに取り組んでいる頃にいくつか生まれた施策のひとつです。当時はワーク・ライフ・バランスが話題になり始めた時期で、この考え方を取り入れることに決まって案を募っていました。

そうした中、毎年実施していた従業員満足度調査に「忙しくて子どもの誕生日も祝えない」というコメントが寄せられていました。ならば子どもの誕生日を「錦の御旗」にして休めるようにしよう、と子どもの誕生日休暇が設けられ、上場した2005年に開始しています。小学3年生までの子どもの誕生日に認められ、該当者はほとんどの人が取得します。2014年度は37名が利用しました。

### 森林保護活動とボランティア休暇

2009年に社会貢献プログラムのひとつとして「NOS(ノス)の森」をスタートさせると同時に、ボランティア休暇を制定しました。NOSの森づくりは、多摩川の源流にある山梨県小菅村において水源涵養、CO2削減を目的に森を甦らせる活動です。過疎や高齢化等で長い間手付かずになっていた森林の植栽、間伐、下草刈りなどの手入れを行っています。

#### 休暇制度 利用者の声

妊産婦検診休暇、子どもの誕生日休暇、ボランティア休暇、リフレッシュ休暇など、有給の特別休暇はすべて取得しているかもしれませんが、今は、短時間勤務ですが、もし特別休暇が認められなかったら子どもが3歳になるまでずっと育休をとっていたかもしれません。

4歳と小学6年生の子どもがいて、父母会などの行事や、子どもの病気などで年次有給休暇を使っているとあっという間に消化してしまい足りなくなってしまう。子どもの誕生日休暇のおかげで年次有給休暇の残りを気にせず、誕生日にお休みすることができ、子どもが行きたがる



お話を伺った石川本部長

ボランティア休暇は、自発的参加とはいえ平日開催されることもあるため、森の活動の開催日を特別休暇として認めてはどうか、と挙がった声をきっかけになって導入されました。森の活動を長続きさせるためにもよいアイデアでした。

開催日は基本的に年に5回です。平日に3回、土曜に2回で、年に数回、家族プログラムも実施しています。平日開催の回が特別休暇になります。

NOSの森づくりと同時に生まれたボランティア休暇ではありますが、個人的にNOSの森づくり以外のボランティアに参加したいというのであれば、申し出てもらい、確認後、特別休暇として認めています。

かつてIT企業は「5Kだ」、「キツイ」と言われた時期がありましたが、当社では休暇制度等の改善に取り組むことで、社員の満足度が上がり、休暇取得も結構な日数になったと思います。そこで、企業としては社員の満足度や働きやすさを収益に結びつけること、「会社の満足度」を上げることを、再認識する段階にあります。特別休暇制度を継続しながら、2015年7月に兼松エレクトロニクス株式会社の子会社として再出発したことを契機に新しい視点で見つめ直していきたいです。

遊園地などに連れていくことができます。平日だと空いているので並ばずに済むのもありがたいです。

NOSの森の活動では家族プログラムに参加させてもらっています。子どもが自然に触れる機会がなかなかないので、スイカ割りをしたり、木を植えたり、じゃがいもを植えたり、魚をとったり、川の水がこんなに冷たいのだとか、こういった経験は森の活動がない限り、自分からはなかなかできません。とても貴重な体験をさせていただいて感謝しています。

(企画・管理本部 山口千恵さん)